

『紡ぐ』

2020.11.15 第14号

発行 教育相談室「あした塾」



自然をゆがして

「自然を残すのは大事だけど、荒れっぱなしではいけないわけ。里山とは、そこに住む人たちがその動植物とのバランスがとれてこそ…。町のチコ入りで、思い切った整備や再開発が必要だ」と思います。」(Aさん)「里山は荒れており、特に民家近くの田畑は草におおわれ、景観も悪くなってきている。」(Yさん) 二つは先のアンケート調査の回答にあったものです。

大切は故郷の自然を生き残すこと。人を招き入れることができる「新しい里山」作りをできるものかという提案でした。「子や孫に残すに相応しい治水町」のことを、もつともと考えていきません。治水町の人には、何となく「人任せ」なのではないかという意見もありました。自分にちの課題をどうやって解決していきますか？



「紡ぐ」の『治水町再発見』には

興味があります。探せば、お宝があると思います。投稿も含め期待しています。普通の民家にも語り継がれたことなど、たくさんあるように思います。「ものがたり町」というのはどうですか？(Kさん)

投稿や情報提供を

先アンケートは終了し、わけではありません。今やうでも、投稿や情報提供の形でお寄せください。現在、取材予定は3件ほどあります。次号以降に掲載できるか…と思っています。

連絡先: 教育相談室「あした塾」 滝井元之

治水町 197 TEL: 56-1151 FAX: 56-1152



秋は すっかり深まり、どの山も色あざやかです。冬は 木々近く…。10月インフルエンザ気をつけて

9.27 穴水町防災訓練から
(穴水中学校会場)

災害は忘れずに

9月27日に穴水町防災訓練が行われましたが、穴水中学校会場に訓練に参加した中学生の感想文がまとまりました。その一部を紹介します。中学生にとっては貴重な体験だったようです。示唆に富んだ内容が多くありました。所民の皆さんも、あらためて「防災」について考えてみませんか？「災害は忘れずに…」は本当にその通りです。能登半島地震を体験したことを忘れてはいけなしいと思います。



(能登半島地震から)



(消防署員の指導のもとで消火訓練)

「自分たちも地域の一員、社会の一員として、まずは家族と災害や防災について話し合っ、身の周りの人たちに災害から守ろうと思いました。」

「災害はいつ起こるか わかりないので、家族と一緒に、もっと防災のことについて話し合う時間をとらなければならぬと、あらためて感じることで、大きな一日になりました。」

自分たち中学生は守られる側

ではなく、守る側なので、「こんなとき、何をすべきか」という判断をしっかりできるようにしたいです。今回は外国人対応の練習だったけど、障害を持っている方やお年寄りの方の対応もしなければいけなしいので、これも勉強になります。」

「能登半島地震を振り返って」とい

う講座で、被害の様子やどれだけ大変だったかよく伝わってきた。「自分は大丈夫だと思わず、最悪のことを考えた行動をすることが大切だ。」「一番考えさせられたのは、能登半島地震の話です。1つは『いろんな人が支えてくれたから、今の穴水がある。』2つ目は『備えをしておくことが一番大切だ』ということ。」

若い力に期待

この防災訓練では、若い役場職員や消防署員の一生懸命に取り組む姿勢が印象に残りました。これからの穴水町を担うべき若い力です。所や所民のために意欲と誇りを持って頑張っていってほしいものです。そのためにも、長く生きて



きた者や職場の上司は、その経験と知識を伝えていくと同時に、若い人の考えや思いを受けとめ、吸上げ、その後の仕事に生かしていくことが大切だと思います。(T)